

福 井 県 医 師 会

だより

第677号 平成29年(2017)11月



錦秋の刈込池

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：錦秋の刈込池

福井市 石黒 信彦

前日は台風接近の予報だったので、遅れて家を出た。通常は駐車場に入りきれない車が道路に延々連なって止まっているのに、流石に今日は駐車場の車も少ない。この辺りは、まだ紅葉が始まったばかりだったが、登るに連れ刈込池の周りは紅葉真っ盛りだった。しかし、雲は厚く光がない。待つこと2時間、雲間から新雪を頂いた三の峰が姿を現した。

醫 縫 録

坂井地区医師会会長就任にあたって

坂井地区医師会会長 坂 井 健 志



私は平成29年6月の定時総会におきまして会長に選出されました。就任直後から行政関係の会議等への出席や役職の引継ぎに追われながら、会長職の重責に緊張した日々を過ごしております。とりわけこの29年度の後半は、来春の第7次医療、介護計画の策定に向け、地域医療構想調整会議や介護保険事業計画策定委員会など重要な会議がタイトなスケジュールで行われます。地域医師会を代表し、様々な会議の中で現状や課題を説明し地域包括ケアシステムの確立に向け、より良い計画が作られるよう努めたいと思います。

さて、私たちの坂井地区医師会は、5つの介護事業所が入った坂井地区医師会ケアセンター（以下ケアセンター）を運営しております。開設して17年がたった現在、利用者の皆様や連携する医療機関・介護事業所様、そして運営にご尽力された先輩諸先生方のおかげを持ちまして、地域の在宅医療・介護に大きく貢献していると自負できるまでになっております。また会員の先生方の医療・介護の連携体制構築を推進し、サポートする坂井在宅ケアネットを運営しています。当初は在宅医療に移行する際に在宅主治医や介護サービスをコーディネートする事業として始まりましたが、現在では、在宅医療を多面的にサポートし、地域包括ケアシステム構築推進の中核となる事業となってきております。在宅医療においては、医師の高齢化や人材不足、主治医・副主治医制、在宅看取りにかかわる諸問題、訪問看護師や介護士などの人材育成など、数々の困難な課題があります。これらを多職種参加の研修や住民啓発、病診連携体制協議などを通して少しずつ解決しながら、更なる在宅医療の充実を目指しているところです。このようにケアセンターとケアネットは坂井地区医師会活動の原動力となっており、今後も存続進化させていくことが私の最大の仕事と思っております。

また、私が考える地域医師会として地域に貢献

する事業としては第一に災害対策です。近年の東日本大震災を初めとする各地の震災や集中豪雨など頻発する自然災害を目の当りにして、災害時の医師会の役割は重要と認識しています。当医師会では奥村前会長の指示のもと、災害対策本部の組織体制の見直し、緊急連絡網の構築や連絡方法の確認、災害対策マニュアルや無床診療所初動マニュアルを作成しました（だより671号掲載）。今後は医師会として必要な防災資機材や備品を備蓄し、災害対策を現実的なものにしなければなりません。第二に地域住民との交流及び健康・予防の啓発事業です。昨年からの市民公開講座を開催しましたが（だより第662号掲載）、これを契機に坂井地区内の介護予防・日常生活支援総合支援事業の一環として「フレイル対策」を行うことになったのは喜ばしい限りです。今年も「認知症予防と生活習慣」をテーマに開催しますが、今後も継続して地域住民の健康や生き甲斐づくりのために必要な情報を発信していくことで交流を深めていきたいと思っております。

最後に会員のための事業としては、第一は、かかりつけ医師として地域で信頼されるための倫理観や知識を積みかさねるため、ケアネットの研修部門と学術委員会が中心となって、様々な形で講演会や研修会を効率的に行っていくことです。第二は、近年医療安全の面から警察、消防との連携が必要になっております。とりわけ検視に立ち会う警察医については様々な課題があり、警察や消防と顔の見える関係づくりに取り組みたいと思っております。

以上やらねばならないことが山積みですが、金副会長、越野庶務理事、伊藤会計理事、友田議長の執行部と理事の先生方とで知恵を出しあって乗り越え、医師会活動がさらに活発になれば幸いです。